



2023年11月24日（金）18:30～20:30

子ども虐待防止学会プレコンgres（ピアザ淡海 206号室）

虐待予防に関するフランス・スウェーデン・日本の国際比較 ～結愛ちゃん事件を例として～

【企画・発表者】○安發明子（日本学術振興会特別研究員），
吉岡洋子（関西大学），堀 浄信（社会福祉法人 光明童園）

【概要】 2018年の「結愛ちゃん事件」を例に国際比較の観点で虐待予防のあり方を検討する。予防型の、在宅での家族支援に注力しているフランスとスウェーデンでの支援の流れとメニューを提示し、日本での今後の虐待予防・対応のあり方を展望する。

① 「結愛ちゃん事件」の概要を確認

② フランスとスウェーデンで想定される支援をフローチャートで示して比較 （以下では両国での対応のポイントを簡潔に示す）



- ・すべての子どもを対象にチェック
- ・「心配な状況」に対し家族まるごと支援
- ・3ヶ月間の集中的な支援の提案
- ・子ども専門裁判官が支援を決定
- ・エデュケーターがケアコーディネート、具体的支援の実施



- ・小児保健や就学前学校ですべての子どもの発達保障と心配のチェック
- ・市町村の社会サービスSWerが家庭訪問
- ・子ども中心モデルでのアセスメント
- ・母親への相談、カウンセリング

③ 児童家庭支援センターでの実践から日本での予防型支援の方向性を提示

全国に176箇所設置されている「児童家庭支援センター」が、虐待の予防と対応のために、それぞれの地域の状況にあわせて活動。熊本県では独自の「三層構造」を基盤に、子どもや保護者等が「困る」前からつながる取り組みを実践。



④ フロアとディスカッション

日本で二度と同じような事件を起こさないためにできることを議論する。

【事前申込フォーム】 <https://onl.sc/49WgRXW>

「会場定員36名」のため要事前申込（超過後のお申込へはメールでご連絡します）

【問い合わせ先】 関西大学社会学部吉岡洋子 yoshioka@kansai-u.ac.jp

* 科研費特別研究員奨励費(23KJ2097)「フランスの子育て支援制度の構造とソーシャルワーク実践に関する臨床社会学的研究」(安發明子)、 科研費基盤C (19K02265)「スウェーデンにおける要支援の子ども・家庭への在宅型サービス」(吉岡洋子)の一環で実施している